

「さんきゅう会の旅」から帰って

今年の「さんきゅう会」の旅は令和元年を迎え、榎並幹事と札幌在住の小池兄の思いを込めた
発案で趣向を変えた北国へのツアーになりました。青木氏作成の「ツアーの記録」によれば
平成 16 年から実施してきた親睦の旅も 16 回になります。又そのうち 7 回が北海道の旅になっ
ています。今回の旅も新緑に包まれ色鮮やかに咲く花々とのコントラストが美しい時期、梅雨の
ない北国の初夏はまた特別に爽やかで心地よく精機が蘇る集いでした。「さんきゅう会」は「39
年会」ではなく「THANK YOU 会」に近いと思っています。高度成長期にあたり家庭電気製品
が増産される時代に S 電機に入社した仲間ではあるが「人生粋を感じる」人たち 11 名が定年後
の親交を深めながら人生を楽しんでいます。遠い昔ことは忘れている事も多い。会社は我々の努
力も水の泡となり経営者難で P 社に吸収され守口も跡かたなし。しかし当時の仲間はその後も
親交を深めながら今日に至っている。家庭にあってはご夫婦ともども健康に留意して結婚 50 年、
金婚式を迎えた方々ばかりである。最近は「人生百年」といわれる様になり、日本では百歳以上
の人口は 8 万人でその 88%が女性との事。「おまえ百まで、わしゃ九十九まで」とさんきゅう会
の貴兄方々も頑張りますか！脚・腰がやはり弱ってきている様ですがお口（飲み食い）もまだ
まだ、その上カラオケの声は青春時代の声量と色気が十分発揮できている様に見受けられます。
「旅行は人間を謙虚にする。世の中で人間の占める立場がいかにささやかなものであるかをつく
づく悟らされるからである」とフランスの作家フローベールは言っています。北大の構内を散策
しながら歴史を感じ当時の先駆者の夢を感じ取る事ができました。また会う日までお元気で！

令和元年 6 月 24 日

西宮にて 西村時彦

6 月の花（エーデルワイス）

の花言葉・尊い思い出

